

# 山口大学 埋蔵文化財資料館だより

No. 8

〔1990年冬の号〕

山口大学埋蔵文化財資料館

## 第4回企画展 アンケート結果

# 『不思議の国のミュージアムVol.2 —学内発掘10年の歩み—』展

埋蔵文化財資料館では、現在、第4回企画展の展示を行なっていますが、予定を繰り上げて、アンケートの結果をお知らせいたします。10月から始めた展示は、大学祭のお陰もあり盛況で、1月までの入場者延べ151人、またアンケートの答えを39人の方から頂きました。しばらくは、展示がありますので、是非おいでください。

### 【1. 所属部局】

学生 17 (人文10、経済2、農・理・教育・医・工短各1) 教官 4 (農・経・教育・工各1)  
事務官 2 (人文・理1、教養1) 学外 16 (地元の方、他大学の学生など)  
大学祭があり、いつもより多くの学外の方に見ていただけました。

### 【2. 企画展を知ったきっかけ】

たまたま通りかかった人が多く(21名)、次はポスターで知った人(8名)です。校内にもマスコミの活用を促す声がありますが、自力の宣伝を考えてみたいと思います。

### 【3. 前回の第3回企画展への来館状況】

大学祭の期間中に来られた方をはじめ、大部分の方が前回は訪れておられません。新たに多くの方に来て頂け嬉しく思いますが、あそこは前に行ったからいいやと言われない展示にしていきたいと思います。



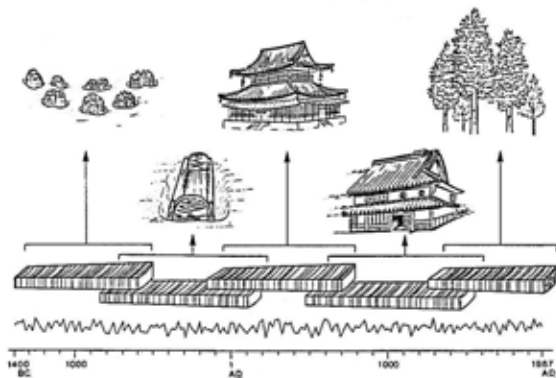
### 【一番印象に残ったもの】

回答の多かったのは、奈良時代の食生活のパネルでした。(6名)その他、古いものが残っていることに感動したというのと逆に、あまり古いものが無いというのがあり、後者については、前回の展示と2部構成にした意図が伝わっていなかったのだと思われま

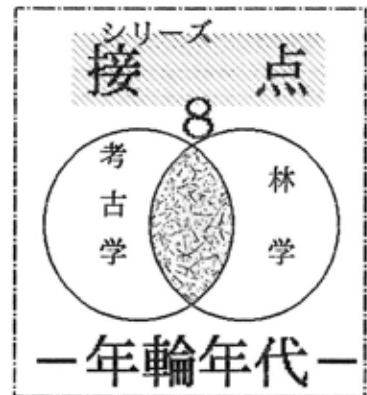
### 目次

・第4回企画展アンケート結果	1・2	・シリーズ 遺物からの「発見!!」~人形徳利~	5
・接点8【林学と考古学一年輪年代法】	3	・業務報告	6
・山口県内の遺跡を訪ねて~室町時代~	4		





標準変動パターン（暦年標準パターン）の作成原理

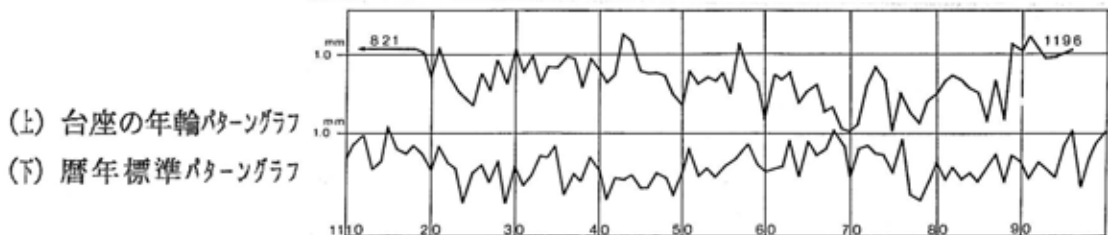


温帯や寒帯では、樹木は1年単位の生長林（年輪）を形成します。この年輪を数えることによりその用材の時代を推定する方法が、年輪年代法（Dendrochronology）です。

年輪は、樹種・立地条件・気象条件などにより、年ごとに幅の差ができますが、特に気象条件は、広い地域にわたり全ての樹木に年輪幅の変動をおこし、同年代に一定地域内で成育した樹木の年輪パターンはほぼ同じになります。そして、伐採年の明かな原生林、古建築部材、遺跡出土木材の年輪変動パターンを重ね合わせ、物差しとなる標準変動パターンを作ります。日本では、ヒノキで、紀元前 206年～現在のデータを連続して得ています。

年輪年代法は、誤差が±1年（成長の止まる冬は、12月以前と1月以降の判定不能）と正確です。しかし注意点があります。1つは、樹皮や辺材部を避けて用いた製品の最外年輪の測定年代は、原木の伐採年が最外年輪の形成年を遡らないだけで、年代推定の上限を示すのみです。また、廃材の再利用の場合は著しく古い数値がでます。データを使用する時は、製品の歴史的背景をおさえねばなりません。今では、遺跡出土木製品、古建築部材、美術工芸品の年代推定に利用されます。

例として、山口県佐波郡徳地町の法光寺阿弥陀如来座像の調査成果を示します。この仏像は、藤原時代末～鎌倉時代初の作と言われてきました。調査の結果、本体が年輪数372本・最外年輪1145年、膝前 同209本・同1013年、台座 同376本・同1196年とでて、一番新しい1196年から13世紀の作品と見ることが妥当と思われ、美術史の裏付けができました。



（図は共に『日本の遺跡出土木製品総覧』 光谷拓実「ヒノキを用いた日本における年輪年代法の現状」より）

## 山口県の 遺跡めぐり

— 室町時代 —

りょううんじあと

### 凌雲寺跡 (山口市中尾)

袋状に開けた小盆地にあり、防御的色合いの濃い土地です。15世紀半ばには、寺が開かれていたと文書には記載がありますが今では、総門跡と称される立派な石垣と、30代大内義興(よしか)の墓が、田んぼの中に残るだけです。

つきやまあと

### 築山跡

— 八坂・築山神社境内 —  
(山口市上堅小路)

28代大内教弘(のりひろ)が造ったと伝えられる別邸の跡ですが、はっきりとした姿はわからず、北西側の鍵状の土塁だけが、明確に残る唯一の遺構です。

当時の有名な連歌師宗祇が、訪れた際、

“池は海 こずゑは夏の深山かな”

と詠い、壮大な庭が広がっていたと考えられ、築山神社脇には歌碑も建てられています。

八坂神社本殿は、重要文化財に指定されています。

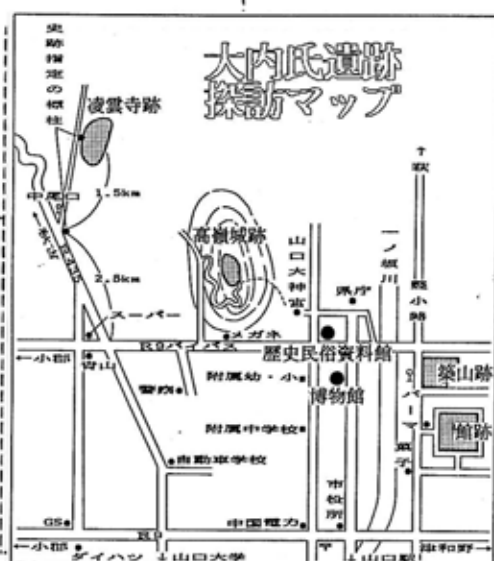


こうのみねじょうあと

### 高嶺城跡 (山口市上宇野令字高嶺)

山口市街の背後にそびえる鴻の峰の山頂に1556年大内氏最後の義長(よしか)により築かれた山城です。後に毛利氏に受け継がれました

が、1615年の一国一城令により廃絶されました。頂上付近とその下に郭が設けられ、井戸や石垣があります。



おおうち しやかたあと

### 大内氏館跡

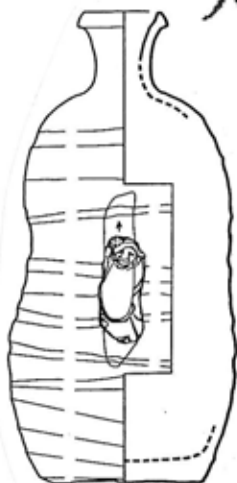
— 龍福寺境内 —  
(山口市大殿大路)

24代大内弘世(ひろよ)から義長(よしか)までの9代が政務を採った居館です。今でも敷地の

周りは道路が矩形に巡り、西と南にのみ出入口が開け、当時の趣を伝えます。この道路の真下に空堀が掘られ、その内側には土塁が築かれていたと考えられますが、今では、土塁は寺域の北西隅と南東隅に痕跡があるだけです。発掘調査では、井戸、池、基壇も見つかっています。

龍福寺本堂は、大内氏の氏寺、興隆寺の釈迦堂をを移転したもの(重要文化財)です。

## 人形徳利－保命酒の容器－



↑ 遺物実測図  
(Scale=1/3)

ここで紹介する人形徳利は、教育学部附属光小学校敷地を昭和59年2月に調査したときに発見したものです。

図ではわかりにくいですが、円筒形をした胴を3方から押して凹ませ、上から見た時には三つ葉のクローバー形になるようにしています。凹んだ1つには、身長5cm弱の大黒天を貼付しています。徳利の色は、明るめの茶色で、落ち着いた色合いです。

この徳利は、福山藩（広島県東部）の鞆（現在の福山市内）の名産の保命酒を入れ、全国各地に販売されたものです。おそらく、光周辺の人が、ブランド物の酒を求めたのでしょう。空き瓶をもらってきたのか  
↓大黒天の拓影  
(原寸大)

### 《 徳利の産地と時代 》

保命酒は、17世紀半ば頃の造り始めは、備前焼（岡山県伊部市中心）の徳利だけを使っていました。しかし、保命酒が有名になり、需要が増すにつれ、1つの産地では徳利が品薄になってきました。また、遠距離を運ぶと運賃がかかり、途中で割れることもあるので、江戸時代になると近くで生産するようになりました。それが備前系の陶器を作る木之庄焼や磁器を作る岩谷焼です。

光小学校で見つけた徳利は、その柔らかな色合い・形から、木之庄焼のものと考えられ、時代は窯の操業期間から、19世紀の前半から半ばにかけてと考えられます。

#### ◎◎◎ 鞆の名産 保命酒 ◎◎◎

餅米と焼酎を主原料に薬種と砂糖を加えて作った薬酒。大坂から来た中村吉兵衛吉長が1659年に醸造し、名酒屋を開く。藩の庇護のもとに特産として独占的に操業。容器の徳利に工夫を凝らし、より一層の販路を広げる。(人形徳利だけでなく、色絵付けのものなどもある。)

## 業務報告 【1989年11月～1990年1月】

★調査……立会調査4件。

1. 亀山 附属幼稚園・小学校バレーコート支柱設置 (11月22日)…顕著な知見なし。
2. 附属幼稚園・小学校公共下水道工事に伴う排水管理設(1月8日～)…遺物発見
3. 吉田 案内標識設置(1月8・9日)…顕著な知見なし。
4. 吉田 本部車庫前下水道管改修 (1月10日) …埋土中より遺物発見。



★外部からの図書寄贈【11月～1月】 貸出もしています。どうぞご利用ください。

- 【石川県立埋蔵文化財センター】…『寺家遺跡発掘調査報告Ⅱ』『漆町遺跡Ⅱ』『水白モンシヨ遺跡』『金沢市米泉遺跡』『末松遺跡』『犀川鉄橋遺跡Ⅱ』『佐々木アサバタケ遺跡Ⅱ』『拓影 第27号』『拓影 第28号』～『拓影 第30号』
- 【富山県埋蔵文化財センター】…『埋文とやま 第29号』 【(石川県)富来町教育委員会】…『鹿頭上の出遺跡』
- 【名古屋市博物館】…『名古屋市博物館だより70』『同71』【豊田市郷土資料館】…『旧井上家西洋館移築復元工事報告』
- 【名古屋市見附台考古資料館】…『伊勢山中学校遺跡』『茶白山古墳』『壑三蔵通遺跡』『若葉通遺跡』『貴生町遺跡』『名古屋城三の丸遺跡』『ドンドン塚発掘調査の記録』『古渡城跡』『NN-259号窯跡発掘調査報告書』『菩薩遺跡』『然田神宮内遺跡発掘調査概要報告書』『年報Ⅵ』
- 【(財)栗東町文化体育振興事業団】…『埋蔵文化財発掘調査昭和63年度年報』
- 【(財)枚方市文化財調査研究会】…『枚方市文化財年報Ⅹ』
- 【(財)大阪文化財センター】…『第2回発掘速報展—堺市日置荘・福田・小阪』
- 【奈良女子大学埋蔵文化財発掘調査会】…『奈良女子大学構内遺跡発掘調査概報Ⅳ』
- 【奈良大学考古学研究室】…『溝久谷遺跡』 【神戸市博物館】…『博物館だより No.30('90・正月)』
- 【(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター】…『京都府埋蔵文化財情報 第33号』
- 【(財)広島県埋蔵文化財調査センター】…『年報Ⅳ』『中央3号遺跡発掘調査報告書』『冠遺跡群』『壬生西谷遺跡』『井出山遺跡』『大成遺跡』『上大縄古墳・下の割遺跡』『奥田・是石・鷺田・藤田』『長後林古墳群発掘調査報告書』『野古墓発掘調査報告書』『賀茂学園都市開発整備事業地(西副区)内遺跡群Ⅳ』『ひらけ遺跡 第38号』『同 第39号』
- 【日本はきもの博物館】…『日本はきもの博物館だより 36』『1990年版カレンダー』
- 【太宰府市教育委員会】…『宝満山遺跡』『大宰府桑坊跡』『佐野地区遺跡群Ⅰ』
- 【国見町教育委員会】…『伊美崎遺跡』 【歴史と自然を守る会】…『誌シヅカム 吉野ヶ里・邪馬台国・大分』
- 【博物館等建設推進九州会議】…『九州国立博物館(仮称)の基本構想案』
- 『文明のクロスロード Museum Kyushu 第11号』～『同第30号』(第23・26・28号欠)

\*\*\*\*\*  
 \* 本冊子は、各講座、教官に一部ずつ配布していますが、ぜひ学生個人でもお持ちい  
 \* ただきたいと考えています。当館で配布しておりますので、ご希望の節は気軽にご来  
 \* 館下さい。また、各学部事務室にも置いてありますので、ご自由にお取り下さい。 \*  
 \*\*\*\*\*

### 編 集 余 話

入試、卒業式と学内もずいぶん  
 とあわただしくなっていますが、  
 春はもうそこまで来ています。  
 新しいシーズンに向かって  
 頑張っていきたいと思います。  
 暖かい日は、ピクニック気分  
 で遺跡巡りもどうぞ。虫やヘビ  
 がいなくて壮快です。

山口大学 埋蔵文化財資料館だより

.....No.8.....【1990年冬の号】.....

発行 2月28日

編集 山口大学埋蔵文化財資料館

〒753 山口市大字吉田1677-1

☎ 代(0839)22-6111 内線299

利用案内(入館無料)

8:30～17:00(土曜 12:30まで) 日・祝 休館

